

## 【2023年 投資信託に関するアンケート調査】

投資信託の保有口座は「つみたてNISA」が全年代で増加し、伸びが顕著。

投資信託の積立投資率は30～70代で増加し、幅広い世代に浸透。

一般社団法人投資信託協会（所在地：東京都中央区日本橋兜町2-1、会長：松下浩一）は、今後の投資信託の利用拡大及び普及啓発に役立てることを目的として、2023年9月に、全国の20歳～79歳の男女個人2万人を対象に、投資信託の保有実態・意識について調査しました。

### 調査結果の全体概要

#### 【投資信託の保有口座】

- 投資信託を保有している口座は、課税口座（特定口座・一般口座）が55.0%（前年比8.5ポイント減）、つみたてNISAが42.6%（同10.6ポイント増）、一般NISAが33.7%（同4.4ポイント減）、iDeCoが16.1%（同0.6ポイント増）。つみたてNISAでの保有は全ての年代で前年より増加。（図1）（参考：報告書P.8）
- 投資信託の現在保有層に投資信託の積立投資（つみたてNISAに限らない）の利用状況について聞いたところ、「利用している」が64.6%、「利用していない」が35.4%で、「利用している」が前年に比べ7.2ポイント増。20代、30代は「利用している」が80%を超えており、30～70代の全ての世代で「利用している」が昨年より増加。（図2）（参考：報告書P.9）

#### 【投資信託の購入意識】

- 投資信託の優れている点（魅力点）について、投資信託の現在保有層・保有経験層は「少額でも分散投資ができる」が52.5%、「積立投資ができる」が32.6%、「専門知識や時間がなくても投資ができる」が32.2%の順で回答が多い。これに対し、保有未経験層は「わからない・特にない」が56.9%。保有未経験層に対し、投資信託の機能や特徴をいかに伝えていくかが課題。（図3）（参考：報告書P.15）

#### 【金融教育】

- 回答者全員に“ふれたことのある金融教育”を聞いたところ、「あてはまるものがない／お金の話にふれたことがない」が65.8%と最多で、「動画サイト（YouTube等）の動画配信」が13.7%、「勤め先の企業での確定拠出年金の導入/継続/教育」が13.5%。「高校や大学での講義」は5.0%と低いが、20代13.0%、30代7.7%であり、徐々に増えていくと思われる。（図5）（参考：報告書P.16）

## 調査結果の主な特徴

今回の調査結果の主な特徴として、以下の3点が挙げられます。

- ① 投資信託を保有する口座は「つみたてNISA」の伸びが顕著。積立投資利用率も増加
- ② 投資信託の保有未経験層には、各々の非購入理由に合った効果的な特長のアピールが重要
- ③ 一番良いと思われている金融教育は「動画サイト（YouTube等）の動画配信」

### ① 投資信託を保有する口座は「つみたてNISA」の伸びが顕著。積立投資利用率も増加

投資信託の保有口座で「つみたてNISA」は、前回に比べて全年代で増加。20代～40代は、つみたてNISAでの保有が課税口座での保有を上回っている。「iDeCo（個人型確定拠出年金）」と「企業型DC（企業型確定拠出年金）」は30～40代で前回より増加。

※保有口座：投資信託を保有している各口座ごとの人数の割合

投資信託の現在保有層において、積立投資利用率は64.6%で前回より7.2ポイント増加。若年層ほど積立投資利用率は高く、20・30代は82%台と高い。30～70代で積立投資の利用率は増加し、幅広い世代に積立投資が浸透しつつある。政府の資産所得倍増プランに基づく抜本的改革の効果が表れ始めていると言えよう。

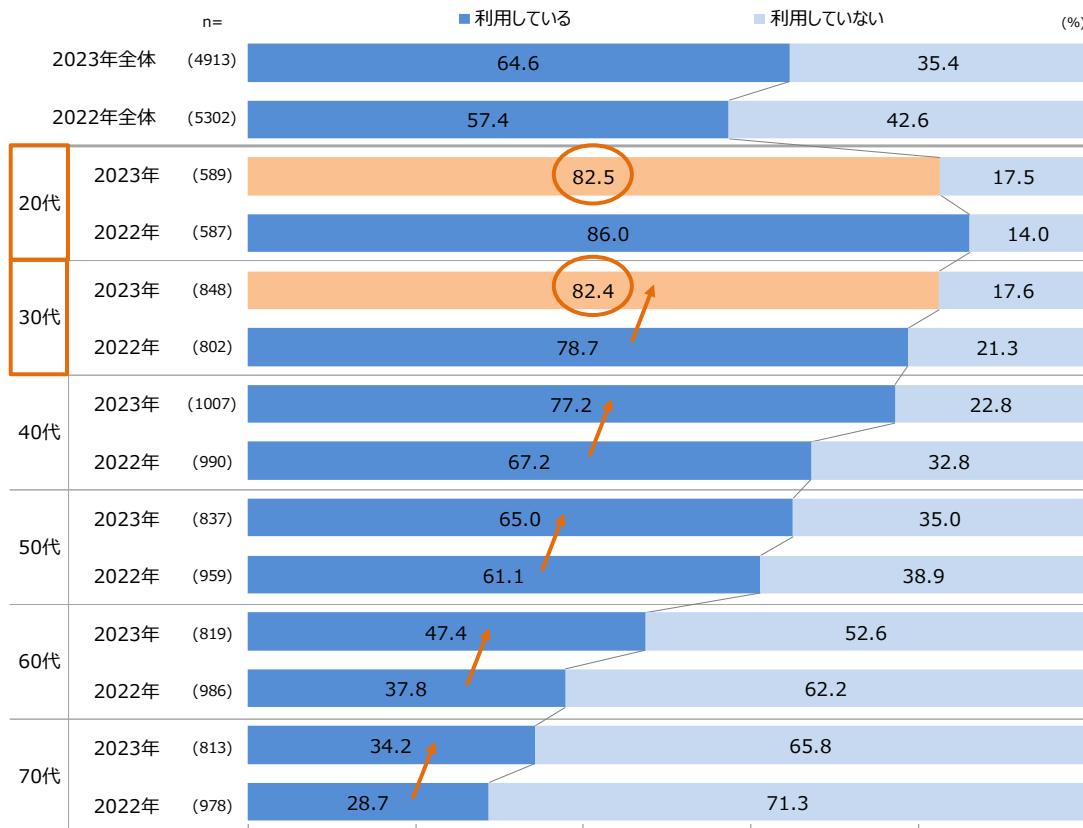
【図1】投資信託の保有口座

(対象者:投資信託の現在保有層/Q3:複数回答/報告書 P.8、33、34)

	n=	特定口座 もしくは 一般口座 など通常の 課税口座	つみたてNISA	一般NISA	iDeCo (個人型 確定拠出 年金)	ポイント投資/ 運用の口座	企業型DC (企業型 確定拠出 年金)	その他	わからない・ 忘れた	(%)
2023年全体	(4913)	55.0	42.6	33.7	16.1	13.1	10.4	0.5	2.5	
2022年全体	(5302)	63.5	32.0	38.1	15.5	14.4	9.4	0.8	2.3	
20代										
2023年	(589)	37.7	69.1	21.4	12.1	15.3	15.1	0.2	1.4	
2022年	(587)	50.1	65.6	25.9	19.4	18.7	16.4	0.7	1.2	
30代										
2023年	(848)	48.8	63.1	28.4	24.5	19.7	16.7	0.5	1.4	
2022年	(802)	52.9	55.5	28.6	22.9	23.6	15.2	0.5	1.1	
40代										
2023年	(1007)	51.4	55.6	28.2	27.2	19.0	15.9	0.4	1.0	
2022年	(990)	57.7	39.5	31.7	24.1	20.7	11.9	1.1	2.0	
50代										
2023年	(837)	57.6	36.2	30.9	20.3	14.1	9.6	0.5	2.5	
2022年	(959)	64.4	27.1	37.0	22.6	14.8	11.5	0.4	1.7	
60代										
2023年	(819)	62.5	23.1	46.2	7.6	6.3	4.5	0.5	3.9	
2022年	(986)	73.8	13.7	48.3	6.4	7.4	4.1	0.8	3.2	
70代										
2023年	(813)	68.1	12.3	45.1	0.5	3.2	0.6	0.7	5.2	
2022年	(978)	75.1	8.4	50.4	0.6	4.6	1.1	1.1	3.7	

【図 2】投資信託の積立投資の利用状況

(対象者:投資信託の現在保有層/Q18:単数回答/報告書 P.9、39、40)



② 投資信託の保有未経験層には、各々の非購入理由に合った効果的な特長のアピールが重要

投資信託の現在保有層・保有経験層が考える投資信託の優れている点と、保有未経験層の感じる投資信託の魅力点について、同じ選択肢で聴取し、比較したところ、保有未経験層は「少額でも分散投資ができる」で 28.1 ポイント、「積立投資ができる」が 23.1 ポイント、「専門知識や時間がなくても投資ができる」が 21.6 ポイント低い。これらは現在保有層・保有経験層が考える投資信託の優れている点の選択率上位 3 項目であるが、保有未経験層に十分に伝わっているとは言い難いようである。

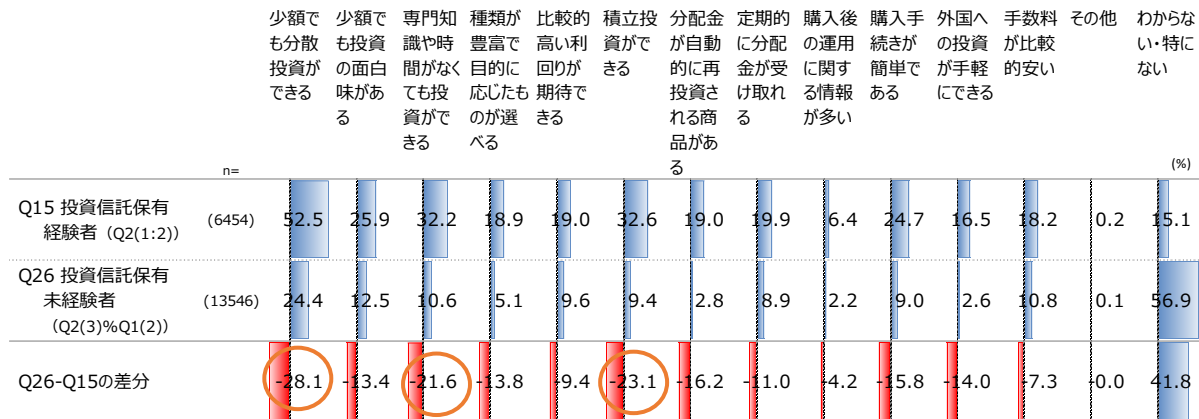
投資信託の保有未経験層が感じる投資信託の魅力点と、投資信託の非購入理由の相関関係に着目した所、非購入理由で「まとまった資金がない」と回答した方は、「少額でも分散投資ができる」を、非購入理由で「商品の種類が多く自分では選択できないので」と回答した方は、「専門知識や時間がなくても投資ができる」を、非購入理由で「購入するのに手間がかかる」と回答した方は、「購入手続きが簡単である」を選択する傾向が見られ、非購入理由の解消につながる特長に魅力を感じている。保有未経験層に投資信託の購入を促すには、各々の非購入理由に合った効果的な特長をアピールすることが重要であると考えられる。

### 【図3】投資信託の現在保有層・保有経験層の考える投資信託の優れている点と 保有未経験層が感じる魅力点

(対象者:投資信託の現在保有層・保有経験層/Q15:複数回答) (投資信託の保有未経験層/Q26:複数回答)

(報告書 P15、61、68)

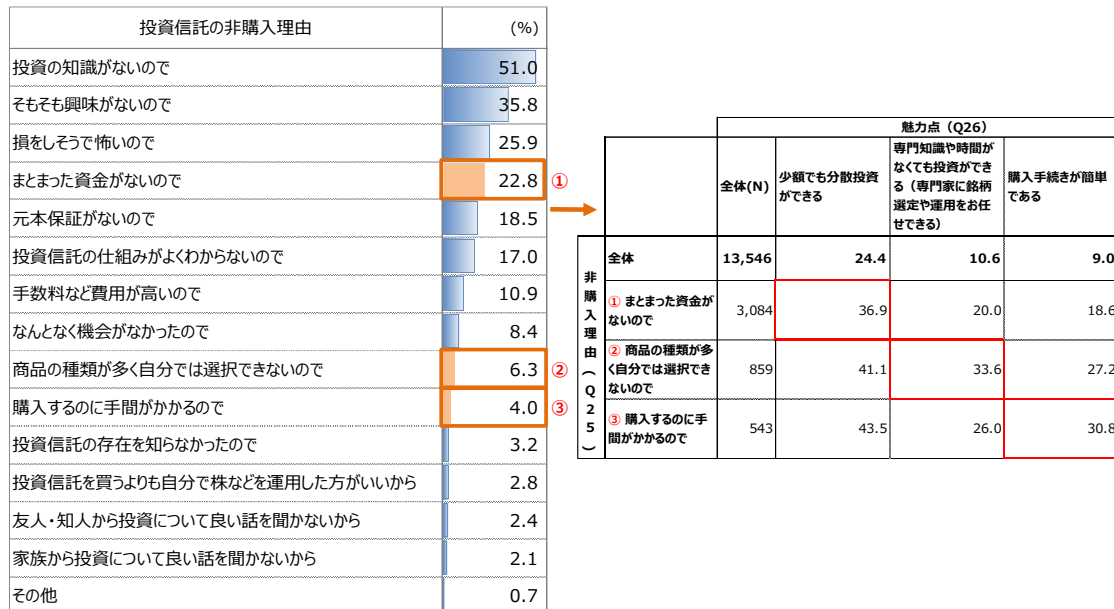
※Q15は「投資信託の現在保有層」と「投資信託の保有経験層（現在非保有）」に「投資信託の優れている点」を聴取。  
Q26は「投資信託の保有未経験層」に「投資信託に魅力を感じる点」を聴取。  
Q15とQ26は同じ選択肢で聴取し、保有経験層と保有未経験層の認識の差を確認。



### 【図4】投資信託の保有未経験層の非購入理由と、非購入理由ごとの投資信託に感じる魅力点

(対象者:投資信託の保有未経験層/Q25:複数回答) (投資信託の保有未経験層/Q26:複数回答) (報告書 P15)

※「投資信託の保有未経験層」に、Q25で「投資信託の非購入理由」を聴取し、Q26で「投資信託に魅力を感じる点」を聴取。クロス集計にて、非購入理由ごとの投資信託の魅力点を確認。



・①「まとまった資金がない」が非購入理由の方は、魅力点として「少額でも分散投資ができる」が36.9%(全体より12.5ポイント高い)

・②「商品の種類が多く自分では選択できないので」が非購入理由の方は、魅力点として「専門知識や時間がないでも投資ができる」が33.6%(全体より23.0ポイント高い)

③「購入するのに手間がかかる」が非購入理由の方は、魅力点として「購入手続きが簡単である」が 30.8%（全体より 21.8 ポイント高い）

①～③より、魅力点は、非購入理由の解消につながる項目が高くなっていることが分かる。

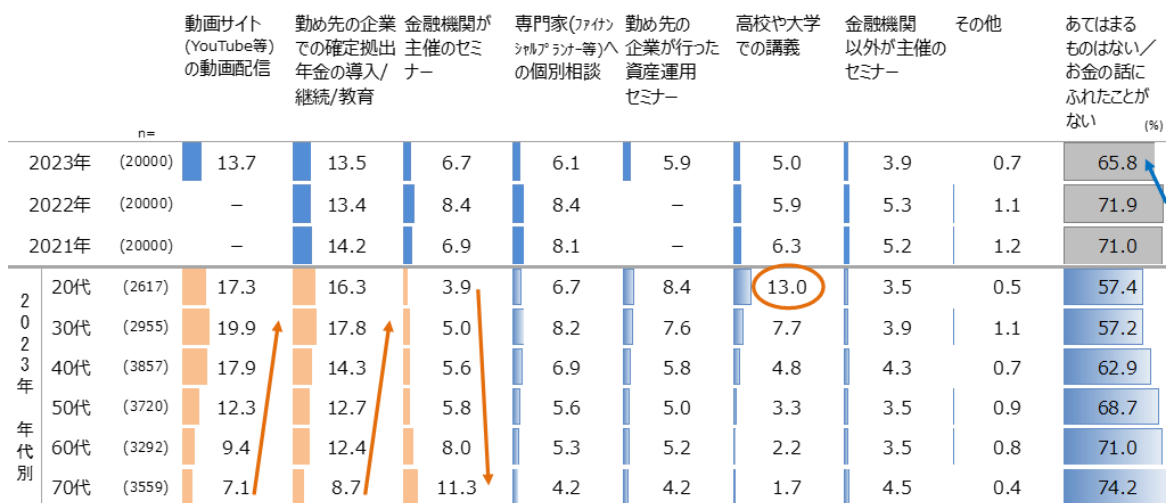
### ③ 一番良いと思われる金融教育は「動画サイト（YouTube 等）の動画配信」

「ふれたことがある金融教育」と「一番良かったと思うもの／一番良さそうに思う金融教育」を聴取したところ、「あてはまるものがない／お金の話にふれたことがない」を除く選択肢の中では、ともに「動画サイト（YouTube 等）の動画配信」が最も高く、次いで「勤め先の企業での確定拠出年金の導入/継続/教育」が続く。

年代別では、「動画サイト（YouTube 等）の動画配信」「勤め先の企業での確定拠出年金の導入/継続/教育」は若年層ほど高い傾向。20 代では「高校や大学での講義」が他の年代より高い。高齢層は「金融機関が主催のセミナー」が高い。

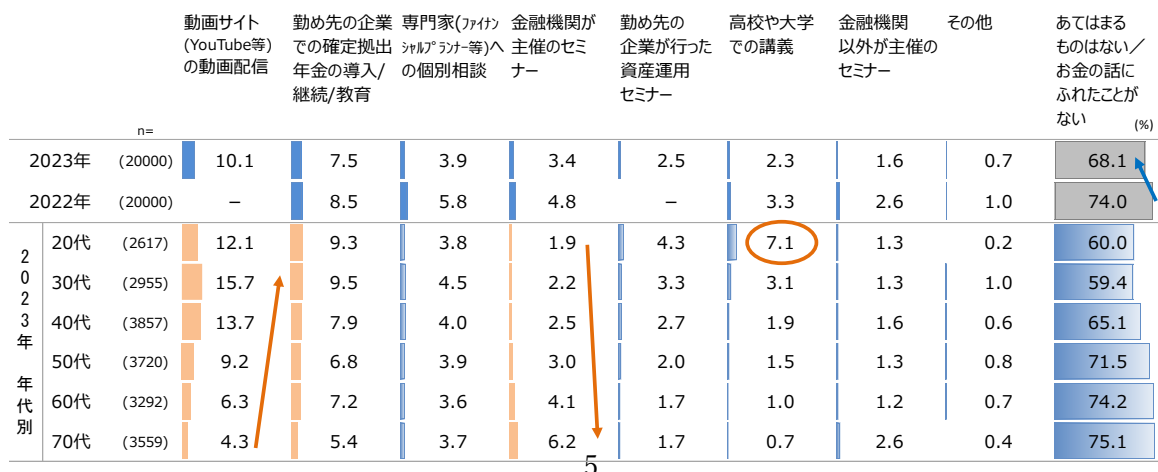
【図 5】 ふれたことのある金融教育

（対象者：全数ベース/Q29①：複数回答/報告書 P.16、90）



【図 6】 一番良かったと思うもの／一番良さそうに思う金融教育

（対象者：全数ベース/Q29②：単数回答/報告書 P.16、92）



## 調査概要

- ・本調査について：  
長年にわたって、投資信託の保有状況等の実態、投資信託保有未経験層の意識等を定期的に調査しています。
- ・調査期間：2023年9月13日（水）～9月20日（水）
- ・調査方法：インターネット調査
- ・調査地域：全国
- ・対象者：20歳～79歳の男女個人
- ・サンプル数：総計20,000サンプル（日本の人口構成比に合わせて回収）

本調査のほか、本会ではNISA制度や確定拠出年金制度に関する実態把握を目的とした「NISA、iDeCo等制度に関する調査」を行っています。

掲載 URL：<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research/>



## 一般社団法人投資信託協会について

- ・名称：一般社団法人投資信託協会
- ・所在地：東京都中央区日本橋兜町2-1
- ・会長：松下浩一
- ・設立：1957年7月
- ・事業内容：自主規制業務、各種制度改正の建議、投資信託等に関する啓発・普及活動など
- ・ホームページ：<https://www.toushin.or.jp/>